WEB連載
Entertainment・Essay
木村奈保子の
音のまにまに
Written By NAHOKO KIMURA

まっとうなヒロイン像の“継承”

木村奈保子の音のまにまに｜第25号

「戦争の指揮、わてに取らせてもらえまへんか？
あんさんにはもう、だ～れもついてきまへん。
いっそ、引退してもらいまひょうか？」

シリーズ4作目、映画「極道の妻　最後の戦い」（日、1990）から、ヒロイン演じる極妻、岩下志麻のセリフである。
ム所帰りの夫に向かって、妻の岩下志麻が吐くセリフである。久々に本作を見て、日本のヒロイン像に、しびれまくった時代を思い起こした。

極道の妻たち
最後の戦い
哀しすぎて、撃つ。

これまで、夫がいないところで忠実に組を見守ってきたはずの妻だが、いまや敵に騙され、愛人ともチンタラしている夫を極道の親分として、ついに見限る、そんな瞬間にいうセリフ、立ち回りが素晴らしい。
このセリフのあと、夫に刀を握らせ、自分の足の甲にブスッと刺させる。
指を詰める以上の、足を詰める、という行為の迫力ある演出が岩下ヒロインのセリフ使いで、美しく引き締める。

「これが、ケジメや。あとは好きにしなはれ。」

妻は夫である親分を蹴り飛ばしてクビにし、女の友情と自らの信念のもとに、一人、敵に向かうシーンが痛快で、かっこよさに涙が止まらない。

ちなみに、映画を観て泣く時というのは、私にとって、いい俳優の芸や演技の凄さを感じるとき、ストーリーのなかで、精神分析に至る奥深い心理が描けているとき、ジェンダー論にかかわるテーマがあるときなど。いわゆる「泣ける映画」というような、お涙頂戴的視点はない。映画は、人間の深みに入るメディア。泣くのは、心をえぐられた時だ。

さて、この家田荘子原作の映画化、極妻シリーズが話題となったのは、女性もやくざ映画に興味を持ったから、というわけでは決してなく、すこぶるタフな精神による新しい女性像が登場したことにあった。
やくざ社会が背景となると、現代ではそれだけで逆に受け入れられない時代だが、このころは、裏街道と関西弁もあいまって、女の根性を表現した。
同時に、80年代は、アメリカ映画におけるヒロイン像がみるみる強くなった。その強さは、子供を産む女性の強さとか悪女のしたたかな強さといった女性的なものではなく、男性に対して、女性の論理的な切り替えしのセリフが見ものとなり、曖昧な恋愛依存より、男女のあり方を論理的に考える方向に向かった。
実社会での女性の権利が進んだのも、こうしたメディアの意識改革が大きく貢献している。

アメリカでは、この方向性がその後も決して後戻りすることはなく、男性が背負うヒーロー像にとって代わる、筋道があり、責任を負い、明確な意思を示す女性像へと向かった。

私が「アメリカ映画と人権運動」をテーマに、論考や講演を30年も続けてきたのは、映画を娯楽としての楽しみ以上に、こうした実社会への意識改革も期待してきたからこそである。

日本でも80年代後半から男女雇用機会均等法も始まり、キャリアウーマンが増える一方、本作は、日本映画のヒロイン像を大きく作り替えるチャンスでもあった。
映画とフェミニズムを語る視点で、欠かせないシリーズといえるが、社会はそれを、どこまで意識してきただろうか？
たぶん一過性のブームでしかなかったのではないか？

背景にあるやくざの世界を、一般社会に差し替えて想像することができたから、多くの女性にも人気の的となった物語。
あくまで、男性社会の補助でしかなかった女性の役割から抜け出たい、私のような感性を持つ女性が日本にも多くいたのである。

さらに東映映画の良さは、原作に描かれた女性の我慢や愚痴や愛をとりいれながらも、男性社会の持つスケール感、アクション技をヒロイン役に、取り入れたところ。
五社英雄のダイナミックな演出でスタートした岩下志麻のタフなヒロイン像は、女のリリシズムにあふれ、その後十朱幸代、三田佳子に引き継がれたが、4作目で再度、岩下志麻がカムバックとなった。

このとき、岩下志麻が、山下耕作を監督に指名。女優が、監督を選ぶことができるという関係性にも進歩があった。

私もこの監督が好きで、「修羅の群れ」（84年、日）をその年のベスト１に入れ、「夜汽車」（85年、日）では、映画の特番をまかされ、演出、制作をした。
山下監督は、ありがちな女性のエロを控えめに、男の世界のストイックで、直線的な表現をヒロイン像にも反映させ、女にも、高倉健や菅原文太のキャラが生かせることを証明したのである。

また本作で大事なポイントは、物語の中で、ヒロインと友情に結ばれた妹分（かたせ梨乃）との関係性である。女性同士が男をとりあって競うわけでもなく、裏切りあうこともない。女性同士、盃を交わした関係だ。そうなると、セクシー梨乃の存在も、りりしくなる。
女同士を戦わせるのが好きな男のせこさはまるでないのが、女性映画らしい。

このころ岩下志麻自身が、「グロリア」（80、米）のジーナ・ローランズを気に入り、アメリカ映画の自立したヒロイン像を意識していたとのこと。

Gloria
グロリア

こうした男性的なヒロイン像をこのころから映画界も明確に確立し、社会で受容し、若い世代がそれを強く継承してきていたら、日本の女性像は、いまもっとグローバルに近づいたかもしれない。

ただ、テレビドラマでは、脚本家に女性が多く、昔と異なりキャリアウーマンの主人公が確かに存在する。
ただ、タフなヒロイン像としては、欧米に比べると、まだまだ線が細いと私は感じる。
中堅女優でも、「グロリア」ばりの迫力が出せると思える人はなかなかいないし、可愛らしさやきゃしゃさ、美貌があり過ぎて、役作りまで到達できないような……

何より、ドラマ全体が劇画チックで笑いをとるような構成が多く、俳優らが、漫画で描かれるような大げさな顔芸や、動きが気になっている。
映画やドラマは確かに“誇張”だ。しかし、誇張される方向が、期待とは違う。

あの、くわえたばこを練習した岩下志麻が、ブランデーを飲みながら銃を携え、「あほんだら～～、撃てるもんなら、撃ってみい～」とすごむ。こんな迫力は、いまやアメリカの女優なら当たり前に出せる凄みだが、日本だと生のイメージも大事だからか、可愛らしすぎて、迫力不足になる。

そういえば新政権で、日本は、他国に比べて女性の閣僚は極端に少ない。とはいえ、こんなに古い男性社会では、たとえ多くの女性が閣僚に入っても、結局、内助の功で悪いトップリーダーを盲目的に奉ったり、あるいは自分の野心のためにしか働かない女性だとしたら、裏切られるような気がしてならない。
まっとうな女性リーダーがどれほど育ってきていないのか、ヒロイン像研究家としては、女性の未来を危惧するばかりだ。

女性が男社会の悪い部分、ダメな部分を恐れることなく、ばっさばっさと斬りすてて、立ち回るヒロインになってこそ、意義がある。
その時代が、近づいているようにはいまのところ、見えない。

まっとうなヒロイン像の“継承”こそ、いま日本に必要なのかもしれない。

木村奈保子
作家、映画評論家、映像制作者、映画音楽コンサートプロデューサー
NAHOKバッグデザイナー、ヒーローインターナショナル株式会社代表取締役
www.kimuranahoko.com

NAHOK Information

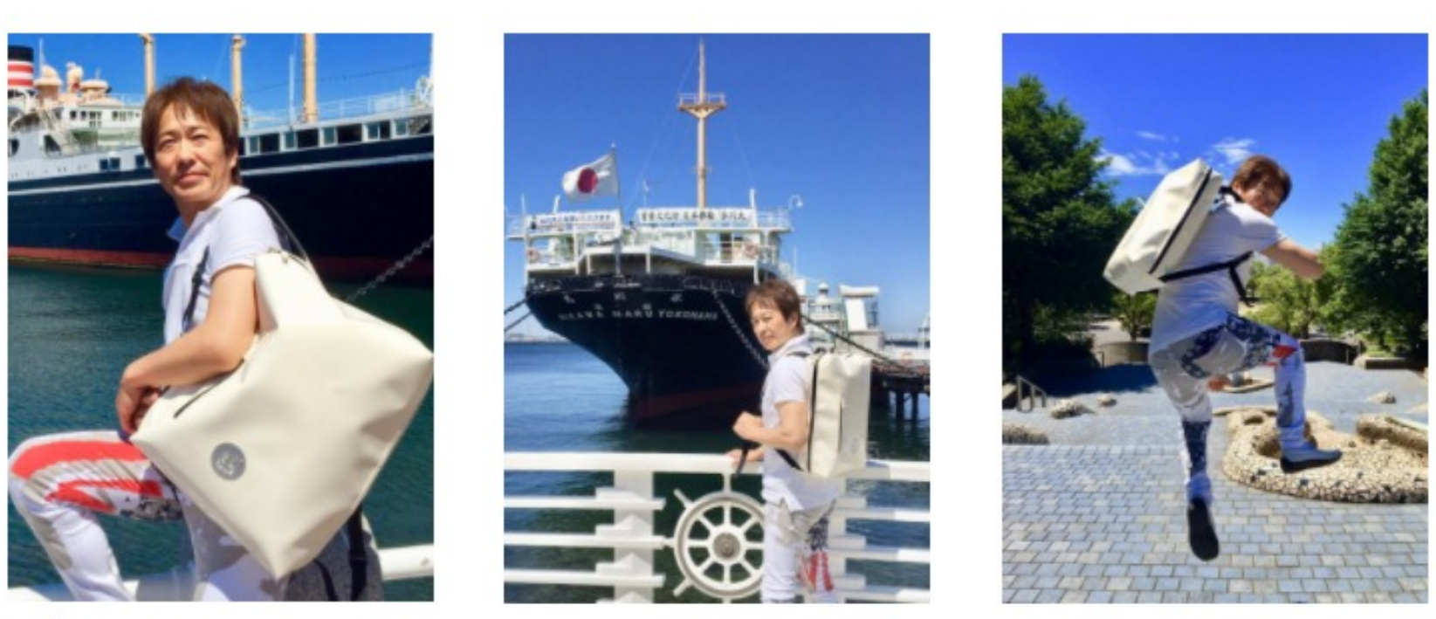
WATER PROOF
Shock Protect

木村奈保子さんがプロデュースする“NAHOK”は、欧州製特殊ファブリックによる「防水」「温度調整」「衝撃吸収」機能の楽器ケースで、世界第一線の演奏家から愛好家まで広く愛用されています。
Made in Japan / Fabric from Germany
問合せ＆詳細はNAHOK公式サイトへ

PRODUCTS

軽量リュック
フルートをシングルケースに入れたまま、ほかのものも一緒に、ざっくりと入れられる軽量バックパックスタイル。1枚仕立てにより、軽いです。内側に、起毛素材による仕切りポケットがひとつあり、ハードケースをそのまま収納可能。B4譜面ファイルから、シングルケース、小物までがっつり放り込める、大ぶりの防水リュックサックです。止水ファスナーで全面を覆っているため、左右どこからも雨が漏れません。

2コンパート・リュック
Wケース＋マチ幅4cmのコンパートメントを追加し、革ハンドルをつけないスタイル。
ブリーフケース型で、リュック専用のケースバッグです。サイズはWケースと全く同じで、カバン、小物側の別コンパートメントを追加しました。外装は、ポケットを含めて全面止水ファスナーで構成されています。



モデルは、東京フィルハーモニー交響楽団フルート奏者で、指揮者としても活動中のさかはし矢波さん

>>BACK NUMBER
第18回：身近に迫る現実社会の悪――“感染列島”の行方やいかに？
第19回：ウィルスよりも怖いのは……
第20回：生と死、ぎりぎりの狭間で見つけ出す答えとは？
第21回：芸術、文化は何を語り継ぐ？
第22回：新しい生活様式とともに、新たな文化を…！
第23回：民族の血とブルース
第24回：“ナオミズム”の強烈なメッセージ

Facebook | Messenger | Twitter | LINE | Evernote | 印刷

<前の記事
“ナオミズム”の強烈なメッセージ

| 関連記事 |
MeTooの土壌、日本では？｜木村奈保子の音のまにまに｜第2号
女性の告発に、なぜ目をつぶるのか｜木村奈保子の音のまにまに｜第9号
知るべきすべては音楽の中に――楽器を通して自分を表現する｜木村奈保子の音のまにまに｜第7号
ヒロイックな女たち｜木村奈保子の音のまにまに｜第5号
エリック・クラプトン～サウンドとからむ生きざまの物語～｜木村奈保子の音のまにまに｜第3号
新しい生活様式とともに、新たな文化を…！｜木村奈保子の音のまにまに｜第22号
看板ではなく感性で聴くことから文化が高まる｜木村奈保子の音のまにまに｜第8号
平昌オリンピックと音楽｜木村奈保子の音のまにまに｜第1号

アーティストの言葉に触れよう BackNumber
Cover Story

Flute Concert Guide
フルートのコンサート情報をお届けします。

PDF Download
アルソ出版 発刊楽譜
ダウンロード販売 PDF スタート！

THE FLUTE お知らせ
THE FLUTE vol.177
THE FLUTE｜バックナンバー
FLUTE CLUB入会・更新はこちら
フルート楽譜一覧
ENTRY 投稿・応募
>> THE FLUTE アンケート一覧へ

KAWAI Music School レッスン新宿
Brand guide メトロノームと上手に付き合うと楽器がうまくなる KORG KDM-3

オリビアを聴きながら｜杏里
悲しくてやりきれない｜村上ゆき
赤いスイートピー｜松田聖子
若者たち｜森山直太朗
未来予想図II｜DreamsComeTrue
夢をあきらめないで｜岡村孝子
恋はみずいろ｜L'amour est bleu
ロビンソン｜スピッツ
君の瞳に恋してる｜Can't Take ...
PIECE OF MY WISH｜今井美樹
Hello, Again～昔からある場所～...
Can You Celebrate?｜安室奈美恵
負けないで｜ZARD
夜空ノムコウ｜SMAP
ALSOonline フルート楽譜音源

多久潤一朗の 先生と生徒 友だちどうし 2人でつくる！ フルートデュオ ア・ラ・カルト 楽譜の特殊奏法を解説！

The Flute ザ・フルート
フィンダさん@チェコより、近況を届けていただきました。
チェコはまだ最近感染者数が増え、規制が厳しくなっているそうです。秋頃にはまたお会いできたら…と思っていましたが、まだしばらく難しそうとのことでした💧
アシスタントのハチさん、かわいい✨✨自ら参加してくれたそうです。
さすが、広報もバッチリ🐶…
もっと見る

HOT VIEW
今話題の人気記事
【第11回】新・国産フルート物語　技術革新の伝統を残し、守ること ―パールフルート
山元康生の吹奏楽トレーニング！｜第1回
“ナオミズム”の強烈なメッセージ
File:15｜仕事交渉の失敗　リンクスのフルートしくじり学
第8回｜「ラ・ボエーム」
♪『間奏曲』『情熱大陸』『夜に駆ける』『いのちの名前』
酒井麻生代のJAZZ店探訪記｜第6回
【第9回】ふたたび、「あふれる光と愛の泉」
石井希衣の教えて！コンテスタント 第6回｜八木瑛子
見直そう フルートの構え方

© COPYRIGHT ALSO PUBLISHING CO.,LTD. ALL RIGHTS RESERVED.